

## 自己評価及び外部評価結果票

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人 誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6851-3		
自己評価作成日	平成27年6月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年7月10日	外部評価確定日	平成27年9月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・東に有明海、西に多良岳連峰と連なる果樹園を臨む開放的な景観を生かし、ゆっくり・ゆったり・あるがままに、をモットーにしています。一日のスケジュールも食事以外は殆ど本人様の意思にお任せし、入浴も夜間以外で選択して頂いております。生活機能の維持については、隣接する老健施設との連携にて専門的な機能訓練の提供など、楽しみながら運動できる環境を整えています。</p> <p>・「可能性を信じ、想像力と創造力による新しい介護」「ご利用者様、家族様の思いを大切に、新しい発見が出来る介護」を基本理念として掲げ、プロ意識と自由な発想をもとに形にこだわらない新しい介護を目指しています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成26年8月に新しく開設された事業所は、木の香りも清々しく、周りの素晴らしい景色と相まって、利用者に安らぎと季節の移ろいを感じさせてくれる。室内は自然採光で明るく清潔である。床下換気の取り入れで、空気のよどみが全くない。</p> <p>経営者の「ありきたりのグループホームでなく、固定観念に捉われず、特長のあるグループホームを創り上げたい」という思いを実現すべく、全職員で検討を重ねて運営理念を創っている。</p> <p>また、職員は1人ひとりに関わる事が出来る喜びを感じている。運営推進会議で委員から出された「利用者の希望や願い、考えを知っての支援が何よりも必要ではないだろうか」との意見を真剣に受け止め、日常の支援に臨んでいる。利用者の希望から実現した「お酒をたしなむ」催しは、このホームならではの行事である。</p> <p>ドライブによる遠出も既成の考えに捉われず、利用者の希望や思いを第一にしている。</p> <p>毎月、各家族にそれぞれ利用者の暮らしの様子がわかる写真やコメントを入れた情報を提供し、家族に喜ばれている。面会に見えた家族に職員の笑顔のある対応や声かけは、気軽に訪ねやすく、何でも相談しやすい雰囲気がある。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念の共有については、毎月の会議時やケアカンファレンス時に再確認行っている ・地域との交流としては、出掛ける程度であるが、今後徐々に学生やボランティア会を通じて実践していく予定である	事業所の開設にあたって、代表者の思いを踏まえつつも、あえて理念を掲げずに出発している。その後、日常のケアを通して幾度となく職員間で話し合いを持ち、理念を創りあげている。従って全職員に理念の共有が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・理念の共有については、毎月の会議時やケアカンファレンス時に再確認行っている ・地域との交流としては、出掛ける程度であるが、今後徐々に学生やボランティア会を通じて実践していく予定である	地域の自治会に加入したり、人と人とのつながりを利用して地域の意見や情報を知る機会を持つ等、地域との連携の在り方を模索中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で理解して頂けるよう働きかけているが、地域の人々に対しての発信はまだ未熟。ホームとの繋がりや認知症に対する理解など、事業所側からの積極的な働きかけが必要		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みの報告行い、それに対しての率直な意見を頂いている。「利用者様の声をしっかり聴いて欲しい」との言葉を頂き、職員間での認識を持って実践している	入居状況や活動報告だけに終わることなく、介護保険報酬改定に伴う問題、美容室利用やネイルケアに関すること、職員研修内容等、多岐にわたって質問や意見が出され、有意義な会議となっている。ケアの原点に関わる意見も出され、職員は重く受け止め日常の支援に臨んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターには定期的に訪問し、現状報告や新しい情報収集に努めている	行政の福祉関係担当課とは常に連絡を取り合い、情報や課題を共有している。また、包括支援センターを交えた町内のグループホーム交流会は、他ホームの支援の在り方や情報等を知る良い機会になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、職員間の意識統一と再確認の場を設け身体拘束ゼロに取り組んでいる	目に見えるもの、見えないものに関わらず、身体拘束をしない支援についての職員の意識は高く、これまでに拘束の事例もない。昼間は玄関の施錠は無く、閉塞感もない。利用者の出入りは、職員の日と耳、観察力、犬の鳴き声のセンサー、隣接の老健との連携で確認をし、安全面の確保に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員間の意識統一と再確認の場を設け虐待防止に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この件についてはまだ勉強会の場を設けていない。今後機会を設ける		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添っての説明を行い、不明や疑問点については再度分かりやすい表現を持って説明し理解して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族については運営推進会議や面会時の聞き取りに努めている。利用者については介護相談員の訪問により聞き取りされ、結果に応じたの反映に努めている。また、事業所内に意見箱を設置している	面会時等における職員の笑顔と誠意ある対応は家族に安心感とともに話しやすさを感じさせている。出された意見や要望は、運営や支援に活かすべく検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議にて意見交換を行っている。個人面談は年二回実施しているが、必要と認めた場合、その都度実施しており個人の意見を出しやすい環境を整えている。	職員の意見や要望を吸い上げ、それを全体や場合によっては個人面談で話し合い、質の高い支援を目指している。管理者は、若い職員にはメールを活用する等工夫をし、意見や要望を聴いて運営に活かす努力を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考査時の聞き取りなどにより、各自の向上心を引き出せるような評価や、職場環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の目標に添った研修や勉強会など、積極的に参加できるように研修費の補助などを行っている。また、常日頃から各自の目標設定の大切さを伝える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に参加、意見交換を行っている。また、地域ケア会議に参加し事例報告会等によりサービスの質の向上に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集、入居後の心身状態や言動、表情を基に、本人様にとっての安心・楽しみとは何かを常に感じ取れるよう工夫し、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時には特に、これまでの苦労を労いながら不安と要望の聴き取りに努める。入居後は主に希望の聴き取りに努めたり、月一回のお便りにて情報の提供を行い、話しやすい環境作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望や、生活状況等から必要な支援の見極めに努め、サービス内容に反映できるよう工夫している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中での様々な行動を「介助」ではなく「一緒に行動する事」と捉え、出来る事も出来ない事も共有しながら「一緒に生活している」と感じて貰えるよう工夫している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで写真と一緒に生活状況をお伝えし、家族様と一緒に共有できるよう努めている。また、面会時に写真を共通の話題としての関係作りのきっかけとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に出掛ける支援を行っている。	利用者の思いや希望を聴いて、関係継続の支援に努めている。なじみの美容室に出かけたり、自宅への仏様詣り、外泊を家族と相談しているのはその一例である。地域老人クラブからの誕生会へのお誘いもあり、現在、参加を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題の提供を行ったり、会話がスムーズに進むよう仲介に入るなどの工夫を行っている。また、他者に対する理解を促すなどの取り組みも行い、利用者同士の関わりが出来る環境作りも努力している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関等に退所された後でも、必要に応じて情報交換や相談に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの聴き取りや生活歴、日々の会話の中から本人様の思いを感じ、出来る限り実現に向けての支援に努めている	利用者に寄り添い、日常の会話、つぶやき、ちょっとした行動の変化、目の動き等からも思いを察し、支援に活かしている。生け花に興味のある方には生け花をお願いしたり、絵が好きな方にはスケッチブックを準備する等、利用者一人ひとりの思いや意向を反映した支援に取り組んでいる。また、歴史に興味がある方には、図書館の利用も検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、これまでの生活や思いに対して心を寄せ、思いを共有できる時間を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの職員が、その時によって異なる心身状態を把握し、職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的と必要に応じたケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの立場からのアイデアを出し合いながら、その人らしく暮らして頂けるよう介護計画を作成している	全職員が一つのチームとなって、利用者本位の具体的で実現可能な計画が作成されている。また、計画は利用者の状態に応じて柔軟に随時見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践についての気づきや新しい発見等、ケース記録行い職員間の情報の共有に努めている。また、新しい気づきは介護計画の見直しに活かされている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい発見、新しい事への挑戦は理念にも掲げており、バリエーションに富んだ支援を目指し事業所として柔軟な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店やイベントなどに出掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は定期以外にも、本人様や家族の希望に添って出来るよう支援している。また、かかりつけ医との信頼関係を築けるよう情報の共有が出来るよう努めている	利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診であるが、地域の協力医療機関での受診が多い。受診には職員が同行支援し、情報は家族にも必ず連絡している。往診はないが、24時間何時でも相談出来る体制が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健施設からの応援を得る状態であり、利用者の情報を提供し必要時に適切な判断が貰えるよう、環境整備に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との情報交換に努め、家族や本人様が退院後の不安が無いよう十分な話し合いの場を設けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る事を見極めながら、家族や本人様の希望に添った支援が出来るよう話し合い行う。終末期に向けた話し合いは未だ出来ていないが、今後必要に応じて進める必要はある	入居の際には、利用者や家族と事業所で出来ることと出来ないことを含めて、納得のいく話し合いがもたれているが、重度化や終末期に向けた方針の共有化、支援については、対応を検討中である。	管理者は、重度化や終末期について明確な方針の必要性を感じている。これからの課題として検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ一回だけの実施。今後定期的に行い、特に応急手当の実践力を身に付けたい		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地域消防団や消防署との定期的な訓練は行っている。地震に対する避難方法が実施出来ていない	消防計画に基づききちんと避難訓練が実施されている。その際、消防署からは適切な指導を受け、その後の対策に活かしている。また、地域消防団に協力を依頼し、消火栓、室内配置、避難経路、避難場所、非常口等も見てもらい、情報の共有化を図っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はそれぞれの個性を理解しその方に合った声掛け、プライバシーや尊厳を尊重した声掛けが実施出来ている。	何よりも人としての尊厳の尊重を支援の基盤にしている。接遇を含めて勉強会や日々の関わりの中で見つめ直したり、管理者による適切な指導も行われている。個人情報についても運営規程にも謳われており、管理も行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりした時間を一緒に過ごす事で思いや希望を話して頂ける環境を作り出している。また、自己決定への支援としては先回りした声掛けをしないよう配慮し、「待つ」を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、業務中心となっていないか自分自身を振り返る機会を心掛け、本人様のその日の気分に合わせたペースを尊重出来るよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性では定期的に美容室に行くことで身だしなみを整えて貰っている。今後は気分に応じて化粧などの支援も計画したい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お酒も楽しめる環境も整えている。食事の下ごしらえや食材の準備、後片付けもしたい人がする、という形をとっている。今後は希望メニューを実現し、より一層食への楽しみを支援したい	塩分を控えた味の良い高齢者向けの食事が提供されている。利用者も食事を楽しみにしている。準備や片付けはやりたい方がやりたいことをしている。包丁をうまく使ったり、献立に合う食器を選ぶ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に一人ひとりの栄養バランスにこだわっていないが、食べられる量については必要に応じて対処している。しかし、水分摂取量については情報の共有を行い、出来にくい人に対してはゼリー等にて補助行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のセッティングと声掛けにて実施できるような環境を整えている。必要な方に対しては月一回の訪問歯科を受診されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用者はおられないが、リハビリパンツから布パンツに移行した方はおられる。排泄パターンを把握し、自然な形でトイレに行かれるような声掛けや見守りに努めている。	利用者1人ひとりの排泄のパターンや習慣がきちんと把握されている。現在、利用者全員が排泄は自立である。職員の細やかな観察によって、利用者の眼の動きから排泄の訴えを知り得たこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合った便秘予防が出来ている。下剤に頼らない排便コントロールを目指しており、水分摂取や体操、腹部マッサージなど実施し、実際下剤が外れた方もおられる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴日を決めてはいるが、希望を優先している。しかし、職員配置の関係上、夜間だけは実施していない。入浴拒否の場合は、足浴や体拭き、更衣のみなど、その方に合った方法にて対応している	夜間を除いて入浴日、時間帯、順番等、入浴に特別な制限はなく、毎日でもゆっくりと入浴出来る。浴室も清潔感に溢れている。入浴をためらう方には無理強いすることなく、言葉かけを工夫したり、足湯で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については、すべての職員が把握出来ているわけではないが、用法や用量についての理解と共有は出来ている。特に薬の変更などがあれば症状の観察などの確認は出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や気分転換の方法については、常日頃から職員間の情報共有に努めており、その場限りであっても楽しみの支援が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩は日常的に支援出来ている。季節に合った花見や美味しい物発見などの外出も計画、実施している。今後は温泉などの外出も計画したい	天候にもよるが、希望によって毎日のように散歩が出来ている。車椅子の方も散歩を楽しみにしている。お小遣いを持ってのお店での買い物や訪問販売の利用もある。隣接事業所の応援を受けてのつつじや藤、サザンカの見学、ミルク牧場へのドライブなど希望による遠出もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在3名の方が少額ではあるが自己管理されており、支援している。職員は、お金を持つ事での満足感と充実感を理解している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者様から季節の花を生けて貰ったり、自然の風を取り入れるなど、季節感を感じて貰えるよう工夫している。生活感としては、料理の音や匂いを感じて貰えるよう声掛けなどに工夫している	室内は落ち着いた色調で、ゆったり感と落ち着きを感じさせる。床下換気の設置で空気の上よみ感も全くない。適度の空調と自然光で不快感もない。リビングの畳の間にはゆっくりと横になっている利用者も見受けられる。季節の生け花や書籍も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間であったり、思い思いの場で過ごして頂いている。また、時には職員も一緒に入りお喋りの時間を楽しんでおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、また必要に応じて家族や本人様からの希望を受け入れている。また、その時に応じて本人様と話しながら家族との写真なども飾っている	各居室がそれぞれその方らしく落ち着いて構成になっている。家族の写真、お気に入りだった洋服、帽子、置時計、盆栽、好きな花瓶等利用者や家族と相談しながら居室が作られている。そこは1人でゆったりと落ち着いて過ごせる所である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞や雑誌など、好きな時に見る事が出来るよう配置している。また、椅子やテーブル、ソファなど自由に使用出来るよう配置しており、利用される際の見守り行っている		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない